



## わが町調布 すてきな町

校長 佐藤 政彦

9月20日(金)から開催されたラグビーワールドカップも、11月2日(土)決勝・閉会式をもって終了となります。開幕戦では、調布駅前のファンゾーンに出掛け、大勢の人たちと一丸となって日本を応援したことが、よい思い出となっています。大きな集団でひとつの目標に向かう『一体感』は、何とも言えませんでした。この感覚や興奮を、来年も味わうことができると思うと、今からワクワクしてなりません。調布の学校に赴任しなければ、ファンゾーンに行くことはなかったでしょう。調布市の良さを、実感することができました。

調布市は、東京スタジアムがあるだけでなく、多くの著名人が“ゆかりの地”として挙げています。その中で、一番有名な方は、調布市名誉市民の水木しげるさんではないでしょうか。今年30日は水木さんの命日にあたり、市内でもたくさんのイベントが行われます。水木さんと言えば、「ゲゲゲの鬼太郎」が有名です。幼い頃、楽しみにしていたテレビ番組のひとつですが、なぜか一人で見るの怖かったのを、今でも覚えています。



武者小路実篤さんも、調布にゆかりのあるお一人です。武者小路さんは、水のあるところに住みたいという子供の頃の願いから、昭和30(1955)年、70歳の時に仙川の地へ居をかまえ、90歳で亡くなるまでの20年間を過ごしました。現在その地は実篤公園となり、隣接した地に実篤記念館が建てられました。公園内には、武者小路さんが暮らしていた邸宅が当時のまま保存されており、記念館には、ご遺族より調布市に寄贈された数々の遺品や作品が展示されています。場所は、八中から南へ徒歩で10分ぐらいの所にありますので、ぜひ、一度は訪ねてみてください。

そして、忘れてはならないのが、本校校歌を作詞した“まど・みちおさん”です。いつ聴いても力が湧き、すがすがしい校歌です。当時、まどさんは、本校の関係者から作詞を依頼され、仕事仲間であった作曲家の金光威和雄さんと共に、校歌作成に携わっていただいたそうです。校歌を作るにあたっては、学校周辺を散策され、八中のイメージを膨らませて完成に至ったとのこと。まどさんの作品には、誰でも一度は聴いたことがある『ぞうさん』『1年生になったら』『ふしぎなポケット』などの童謡があります。八中の校歌も一度聴いたら忘れることができない名作です。君たちが大人になったときに、校歌を口ずさみながら中学時代を回想するシーンが、きっと訪れることでしょう。

君たちの町・調布は、住みやすく、とてもすてきな町です。そんな町を誇りに思い、やがては、君たちが地域の担い手となって活躍することを願っています。地域に貢献し、地域の未来を創るのは君たち一人一人なのです。